

報告

ASTRO EDU 会議参加報告

矢治健太郎（核融合科学研究所）

2019年9月16～18日、天文教育の国際会議「ASTROEDU Conference」[1]がESOのスーパーノバ[2]を会場に開催された(図1)。CAP(Communicating Astronomy with the Public)は天文コミュニケーションに特化しているのに対し、この会議は天文教育をテーマとしている。サブタイトルがBridging Research and Practiceとなっていて、天文教育分野の研究面と実践面をつなぐ(橋渡りする)ことを意識した内容になっている。

参加者は115名。日本からは私を含めて、6人が参加。私のほかは、縣秀彦さん(国立天文台)、富田晃彦さん(和歌山大)、松村雅文さん(香川大学)、日下部晃彦さん(アストロバイオロジーセンター)、川越至桜さん(東京大学生産技術研究所)。富田さんはこの会議のSOCである。ドイツでの開催にも関わらず、中国やタイ、マレーシアなどアジア圏からの参加も目立った。

ESOとは、ヨーロッパ南天天文台のことで、ミュンヘン郊外のガルヒンクという町にその本部がある。ミュンヘン地下鉄のU6線の終点・Garching-Forschungszentrum駅(直訳すると、ガルヒンク研究センター駅)で下車して、徒歩10分のところにある。この周辺には、ミュンヘン工科大学やマックス・プランク研究所などの施設がごろごろしている。ESOに訪問するのは2014年の夏に、国立天文台の広報チームと訪れて以来、5年ぶり[3]。今回のお目当ては、なんとといっても、昨年オープンしたビジター施設の「スーパーノバ」。プラネタリウムも展示もすばらしい施設で、会議の合間に見学して回ったが、見ていて飽きなかった。会場には、CAPなど過去の天文教育普及関連の会合で会った



図1 ASTRO EDUの会場の様子

面々が多く参加していて、旧交を深めることができた。わたしは名刺を配りながら、現在のステータスを報告。いやあ、海外の人に岐阜県や愛知県を説明するのは意外と難しい。なお、今回、わたしは特に発表はなし。

今回、以下の3件のキートークがあった。

初日は、ジャネレ・M・ベリー(米)が、「最近の天文教育研究の動向と今後」についてレビューした。2日目は、ロバート・ホロー(豪)が「学校教育カリキュラムにおける天文学の実態」について話した。豪州の学校教育での天文分野の扱いに触れていたため、講演後、日本での事情を交えて質問した。3日目は、アグエダ・グラス・ベラスケス(ベルギー)が、彼自身が活動している、ユーロピアン・スクールネットを例にティーチャーズ・トレーニングについて紹介した。

また、一般講演とワークショップが平行で行われた。私もいい機会なので、以下の2つのワークショップに参加した。一つは「天文アウトリーチのインフォーマルな実践(Informal practices in Astronomy outreach)」というもの。ライデン天文台の

スザンナ・F・マーティンスがコンビーナを務めた。すごろくを使って、イベントの形式・対象・目的を決めて、企画するもの。私は、マレーシアから来た大学の先生、ヌル・N・MD・シャリフといっしょに、プラネタリウムを使ったアンコンファレンスのイベントを企画して、最後に発表を行った。科学ライブショー「ユニバース」での経験が生きた。1時間のワークショップだったが、非常に有意義だった。

もうひとつは、「天文教育のためのビジュアル・シンキング」(Visual Thinking Strategy Approaches to Teaching Astronomy)。絵や写真の内容を他人に伝える実践。最初は抽象画に始まり、最後は天体写真を専門用語を使わずに説明するもの。意外と難しかったが、これも非常におもしろかった。

一般講演では、富田さんが縣さんらで行った、日本で出版された天文教育関係の論文の分析が発表された。他にも、タイやマレーシア、ロシアのイルクーツクの科学館での天文教育の活動など、興味深い発表が続いた。ただ、天文教育を主題としながらも天文コミュニケーションを主体とするCAPと似通った発表もあった。



図2 ワークショップでの発表(左は筆者)

会議中、IAU会長のエビーネ・ファン・デ・イショックさんのあいさつや、ESO台長のザビエル・バーコン氏のESOについて紹介した。

ポスター発表会場も盛況だった。発表者の中には、ドイツやルーマニアの高校の先生もいて、授業実践や天文クラブの活動を報告していた。

今回は2021年の3月に開催を予定しているとのこと。ただし、場所は未定とのこと。

以下、2020年の主だった天文教育普及関係の国際会議。興味がある方はぜひ参加するといいたいだろう。

7月6～10日 Asia-Pacific Regional IAU Meeting(APRIM2020) オーストラリア・パース

8月15～23日 2020 Committee on Space Research(COSPAR) オーストラリア・シドニー 8/17～19にはCOSPAR-KというSTEM教育に関係したイベントが行われる。

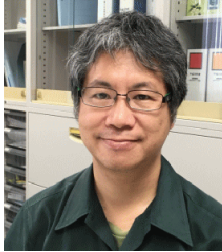
9月21～25日 Communicating Astronomy with the Public(CAP2020) オーストラリア・シドニー

12月9～14日 IAUシンポジウム 367:Education and Heritage in the Era of Big Data in Astronomy. The first steps on the IAU 2020–2030 Strategic Plan アルゼンチン・バリローチェ

文 献

- [1] ASTROEDU Conference
<https://iau-dc-c1.org/astroedu-conference>
- [2] プラネタリウム&ビジターセンター Supernova
<https://supernova.eso.org>
- [3] 縣秀彦・矢治健太郎(2014)「次世代育成

欧米に負けない広報・アウトリーチ活動の
実践を国立天文台でも「ESO、ライデン大
学および ESA 訪問記」, 国立天文台ニ
ュース, 257,8-9



矢治 健太郎